

# ふじのみや探検

## 第27号 富士山と雲のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

### ひみつ1 富士山に笠雲がかかると 雨になるって 本当？

昔から、富士山にかかる雲を見て天気  
 予想し、生活に役立ててきました。特に、  
 笠雲は雨になる前ぶれとして、多くの人た  
 ちに知られています。

河口湖測候所は、昭和8年から20年間  
 にわたって、富士山の雲と天気の関係  
 を調査しました。それによると、富士山の笠  
 雲と天気の関係は、下の表にあるように  
 季節ごとその日の天気と結びつけて示され



ています。例えば、上の写真は、皿を重ねたような形で、いくつもよこすじがあるので「よこすじ笠」と名前が

つけられ、この笠雲がでると雨風ともに強くなるよ  
 うです。

また、笠雲がでると24時間以内に雨になる確率は、  
 季節によって異なりますが、夏は82パーセント、秋  
 は76パーセント、冬は57パーセント、春は72パー  
 セントだそうです。かなり高い確率で雨になるので  
 すね。笠雲がたくさん発生するのは7月と9月です。

富士山にかかる笠雲の形とつけられた名前を見比  
 べると、なるほどと思います。「まえかけ笠」は赤  
 ちゃんのよだれかけみたいで、かわいらしいですね。  
 富士山に笠雲がかかっていたら、ぜひ名前を当てて  
 みてください。

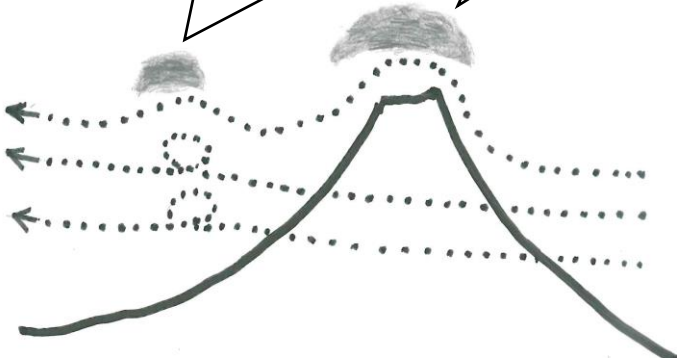
#### ◇ことばの説明

確率 … 一つのできごとの起こり得る可能性の割合  
 のことです。たとえば、笠雲が100回出て、82回雨  
 になったら、「82パーセントの確率で雨」という使  
 方をします。パーセントは、百に対していくつに当  
 たるかを示す割合の単位です。

レンズ笠  風雨 春	にかい笠  雨 全年	われ笠  雨 秋	はなれ笠  晴 冬
えんとう笠  風雨 冬	はふ笠  雨 春	ひさし笠  雨 秋	まえかけ笠  晴 夏
なみ笠  風雨 冬	ひとつ笠  雨 春・夏	うず笠  風 冬	ふきだし笠  風晴 冬
よこすじ笠  風雨 夏	おひき笠  雨 夏	すえひろ笠  風 冬	みだれ笠  風晴 冬・春
かいまき笠  風雨 秋	とさか笠  雨 夏	うねり笠  風 夏	つみ笠  風晴 春

富士山の山腹を回り込んだ風が渦を巻き、上昇気流となって雲をつくり、上下に波打ちながら降りてきます。これが「つるし雲」です。

上昇気流によって湿った空気が冷やされ「笠雲」となります。



富士山にはいつも西風が吹いています。その風は富士山に当たると斜面に沿って上昇します。風の正体は空気の流れですが、その空気が湿っていると、冷やされて雲のもとになる小さな粒になります。それがたくさん集まって雲になります。その小さな粒を含む空気は、山頂から下降していきます。そうすると、今度は温められて雲は消えてしまいます。笠雲は浮かんでいるように見えますが、実は、新しい空気が流れ込んで雲をつくり、下降するにしたがって消

えていきます。その現象が、遠くから見ると、富士山が笠をかぶったように見えるのです。

温度や地形の変化によって大気中に起こる空気の流れを気流といいます。西風が富士山にあたり上昇気流となって雲をつくり、下降するにしたがって雲が消えていくのです。空気が乾いていると上昇しても雲をつくることはありません。

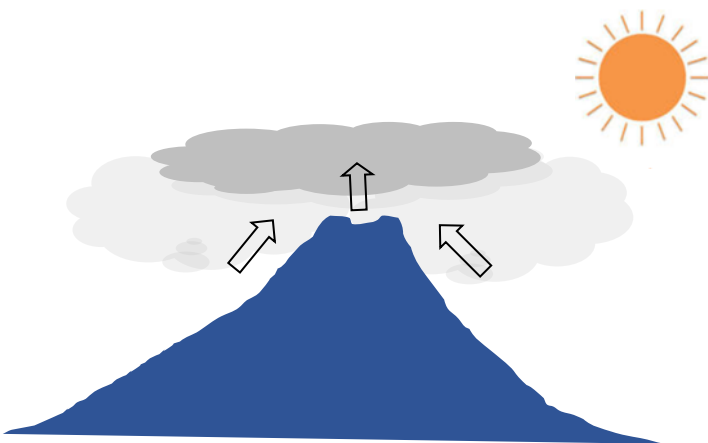
笠雲とよく似ている雲に、つるし雲があります。富士山の山腹を回り込んだ風が渦を巻き、上昇気流となって雲をつくり、上下に波打ちながら降りてきます。これがつるし雲です。富士山から離れているのが特徴で、形はまるで宇宙からやってきたUFOみたいです。このつるし雲は珍しい雲で、芸術的な対象として多くの写真家が撮影しています。右の写真は、富士宮市半野在住の島野孝一さんの作品です。



太陽によって温められた空気が、斜面に沿って山頂に昇り、上昇気流が生まれます。この気流が弱いとモコモコとした雲ができ、これも、笠雲になります。

#### ◇ことばの説明

UFO …未確認飛行物体。その名の通り、何であるか確認されていない正体不明の飛行する物体のこと。Unidentified Flying Objectの頭文字。



## 富士山のまわりには どんな雲がみられるの



日本画家・横山大観は「群青富士」という作品を残しています。純白の雲海にそびえる富士山は、気高く立派にみえます。雲海は無限の広がりを感じさせ、富士山を際立たせるふしぎな魅力をもっています。



雲海の中に浮かびあがる富士山も絶景ですね。長野県や山梨県など遠方から、雲の上にぽっかりと浮かんだ富士山を見ると、日本の伝統曲「富士の山」の歌詞「あたまを雲の上に出し 四方の山を見おろしてかみなりさまを下に聞く」を思い出すのではないでしょうか。



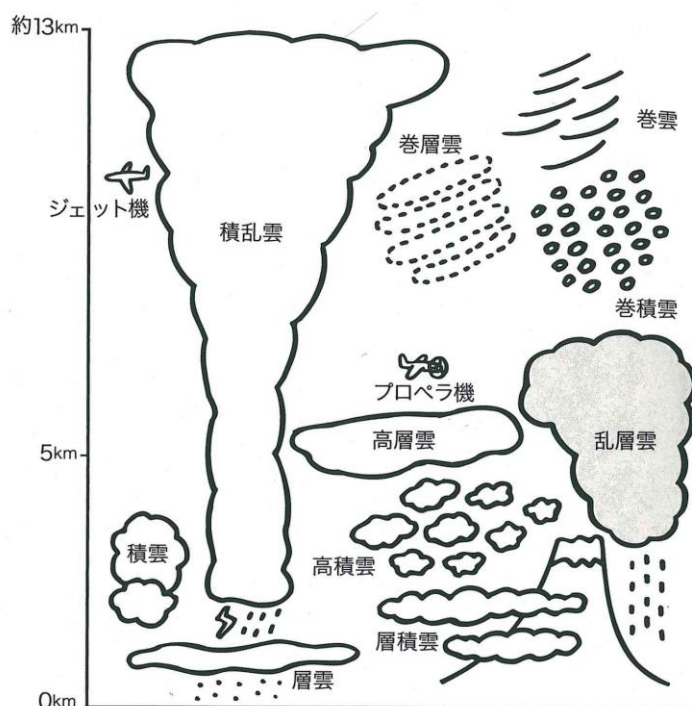
葛飾北斎は「凱風快晴」という朝日に映える富士山(赤富士)を描いていますが、大空に広がる雲なくては、北斎の感動した富士山の思いが伝わりませんね。この作品は、江戸時代後半、ヨーロッパに渡り、多くの人々に富士山をはじめ日本文化のすばらしさを伝えました。北斎は、天高く広がる雲を背景に富士山を描くことで、大自然の雄大さを表したのです。



江戸時代後半、「富士越龍」が多くの絵師によって描かれました。富士山と雲にのった龍の絵が庶民に大人気で、富士山の神秘性や龍の勢いある姿に、立身出世や不老長寿を祈ったのです。

左の図は、北斎の描いた不二越龍ですが、暗雲のなかに龍がくっきりと見えます。雲にのっているようには見えませんが、雲をたよりに天に昇る感じです。日本画には、しばしば雲がのりものとして登場しています。俵屋宗達が描いた風神雷神図屏風には、雲にのった風神雷神が描かれています。

他に富士山のまわりにどんな雲が描かれているのか、さがしてみてください。そこには、作者の感動した富士山への思いがあります。



高さ	名称	通称
上層	巻雲	すじ雲
約 5 ~ 13 km	巻積雲	うろこ雲・いわし雲・さば雲
	巻層雲	うす雲
中層	高積雲	ひつじ雲・むら雲
約 2 ~ 7 km	高層雲	おぼろ雲
	乱層雲	あま雲・ゆき雲
下層	層積雲	うね雲
地表 ~ 約 2 km	層雲	きり雲
	積雲	わた雲・にゅうどう雲
	積乱雲	にゅうどう雲・かみなり雲

雲を、形や出現高度から10種類に分け、「10種雲形」としています。国際的にも同じ分類が使われています。北斎の「赤富士」に描かれた雲は、上の分類表をみると巻積雲でしょうか、それとも高積雲でしょうか。富士山よりも下にある雲海は、層積雲や層雲ですね。雲がでると雨になりそうですが、上層に雲があるうちは天気が安定している証拠で、高層雲が空一面をおおうようになると、雨が降るようになります。積乱雲は、湿った気流がいきなり上昇して冷やされ、雷が鳴り、大雨になりやすい雲です。

◇ 『第27号 富士山と雲のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 『雲の博物館』 菊池勝弘・山田圭一 / 成山堂書店 2013
- 『富士山 平成19年度NHK富士山写真コンクール入選作品集』 NHK サービスセンター 2007
- 『あつ 富士山!』 吉村ゆみこ / メイセイ出版社 1997
- 『天気がわかることわざ辞典』 細田剛 / 自由国民社 1991
- 『富士山まるごと大百科』 佐野 充 監修 / 学研 2014
- 『富士山の大図鑑』 富士学会監修 / PHP 研究所 2013
- 『フィールドの天気がわかる本』 武田康雄 監修 / 地球丸 2016
- 『富士山百画』 富士山百画選定委員会 / 富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議
- 『雲のかたちで天気がわかる』 新田尚 / 大日本図書 2002
- 『富士山絵画の正統』 松島仁 / 静岡県富士山世界遺産センター 2018